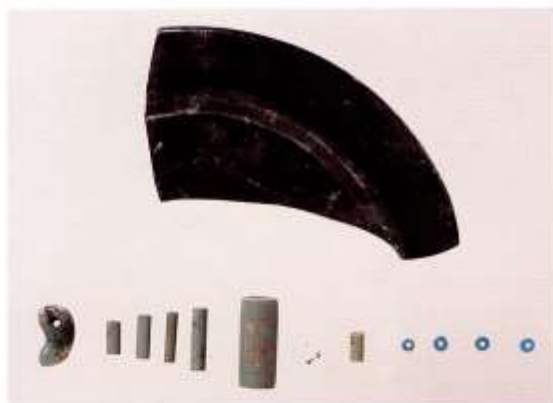


せっかん こじんこつ
石棺と古人骨

『太田岩坪石棺』は、平成7（1995）年町教育委員会により八女丘陵北側で土取りを行っている崖面で偶然発見されました。緑泥片岩（綠色片岩）の板石を組み合わせた箱式石棺があり、その内部には二体分の頭蓋骨と大腿骨の一部が残っていました。二体の人骨は、形質的に渡来系弥生人の可能性があり、20歳代と30歳代の女性と考えられます。二人の関係は不明ですが、副葬品として舶載鏡（内行花文鏡）の破鏡1点、刀子1点、勾玉や管玉などが出土したことから、何らかの呪術的な役割をもった人物ではなかったかとも思われます。弥生時代後期頃と考えられるこの石棺は、現在広川町古墳公園資料館の敷地内に移築し、頭蓋骨と出土品も展示公開しています。



出土した2体の頭蓋骨



箱式石棺内からの出土品



岩坪石棺の出土状況

時代【弥生時代Ⅲ】